

平成 27 年(2015 年)4 月 7 日

～一人ひとりの声から新たな産業を創出する！～ “オール近大” 川俣町復興支援プロジェクト報告会 4 月 12 日（日）福島県・川俣町中央公民館大ホールにて

近畿大学（大阪府東大阪市）は、平成 27 年（2015 年）4 月 12 日（日）福島県川俣町中央公民館大ホールにて、東日本大震災復興支援としておこなっている「“オール近大” 川俣町復興支援プロジェクト」（次頁参照）の活動報告会を開催します。

【本件のポイント】

- 5 年目を迎える川俣町への支援活動を検証。新たなフェーズに向けて支援の更なる充実を図る。
- 昨年の同報告会における町民との交流から、複数の新規プロジェクトが始動した。
- 農学部食品栄養学科による料理提供や教員との相談ブースを用意。町民と教員の距離を縮めることで、町のニーズを汲み取る。

【本件の概要】

本学は、13 学部 48 学科を擁する総合大学としての研究力を生かし、福島県川俣町（東日本大震災に伴う原発事故により現在も一部地域が居住制限区域と避難指示解除準備区域に指定）の早期復興を「“オール近大” 川俣町復興支援プロジェクト」として支援してきました。本活動も 6 月をもって 5 年目を迎えることになり、現在の川俣町のニーズに則した活動に切り替えていく必要を感じています。

昨年実施した本報告会がきっかけとなり、アンスリウム等の花卉栽培や絹織物企業からのパッケージ作成依頼などのプロジェクトが始動しました。そこで、今回の報告会ではこれまで実施してきた「除染研究」「心身ケア」「産業振興」の 3 つの活動内容についての報告に加え、それぞれの相談ブース設置。さらに、農学部食品栄養学科による「川俣シャモ」や「近大おいし鴨」を使った料理の提供や「近大マグロ」解体ショーを予定しており、町民、教員間の心理的な距離を縮めることで、より深くニーズの汲み取りをおこないます。

今回の報告会を機に、これまで以上に町の方々の意見に寄り添った効果的な復興支援を行うことで、一日も早い復興実現をめざします。

- 日 時：平成 27 年（2015 年）4 月 12 日（日） 11：00～15：30
- 会 場：川俣町中央公民館大ホール（福島県伊達郡川俣町字樋ノ口 11）
- 対 象：一般の方入場可能（入場無料、申込不要）



昨年度報告会の様子

平成 27 年(2015 年)4 月 7 日

【報告会 次第】

11:00 開会

町長挨拶（川俣町長 古川 道郎 氏）

近畿大学挨拶（東日本大震災復興支援室長 伊藤 哲夫）

11:15 「近大マグロ」解体ショー

11:45 活動カテゴリー※¹別活動およびブース紹介

12:15 相談ブースオープン

同時に「近大マグロ」のお刺身や農学部食品栄養学科によるオリジナル料理※²提供

15:30 終了予定

※1 「除染研究」「心身ケア」「産業振興」の分野について 26 人の教員が相談に応じます詳細は次項参照

※2 「川俣シャモ炊き込みご飯」&近畿大学附属農場で育成された「近大おいし鴨」の鴨汁



川俣シャモ炊き込みご飯&近大おいし鴨の鴨汁



「近大マグロ」解体ショー

【当日参加教員】

東日本大震災復興支援室 室長 伊藤 哲夫 教授

【除染研究グループ】

原子力研究所 山西 弘城 教授 若林 源一郎 准教授 稲垣 昌代 技術課長補佐

理工学部 藤野 隆由 准教授 山本 純之 研究員

薬学部 多賀 淳 准教授

工学部 井原 辰彦 教授

バイオコース研究所 井田 民男 教授

【心身ケアグループ】

医学部 細野 眞 教授 花田 一志 講師

高原 尚美 看護師 井上 亮 診療放射線技師

総合社会学部 金井 啓子 准教授 奥野 洋子 講師

【産業振興グループ】

農学部 林 孝洋 教授 川西 正子 准教授 明神 千穂 講師

稲村 真弥 助手 上西 梢 助手

生物理工学部 鈴木 高広 教授 星 岳彦 教授 木戸 啓仁 教授

堀端 章 講師

経営学部 大内 秀二郎 准教授

バイオコース研究所 田中 尚道 教授

平成 27 年(2015 年)4 月 7 日

【“オール近大”川俣町復興支援プロジェクト 活動内容】

本学は、13 学部 48 学科を擁する総合大学としての研究力を生かし、総力を挙げて福島県川俣町（東日本大震災に伴う原発事故により現在も一部地域が居住制限区域と避難指示解除準備区域に指定）の早期復興を支援するために立ち上げた学部横断プロジェクトです。

地場農産物の活性化や教育・文化の育成などの「復興支援」と、除染研究や健康管理など被災からの「再生支援」の二面から、町の方の意見を取り入れながらサポートしています。



除染研究：バイオコルクス技術による減容化

東日本大震災被災地でひっ迫している除染廃棄物仮置場や仮置場から中間貯蔵施設への輸送問題について、近畿大学が開発したバイオコルクス技術によって解決する方法を提案。昨年は環境省の事業として、本技術の実証実験を川俣町で実施しました。



心身77：ガラスバッジによる放射線量測定

原子力発電所の事故による放射線から子どもたちの命と健康を守るため、町内の幼稚園児、保育園児、小学生、中学生全員を対象に、個人の放射線量を測定する積算線量計（ガラスバッジ）の配布を支援しています。3カ月ごとに子どもたち一人ひとりが日常生活で受けた放射線量を測定し、結果を保護者へお知らせしてきました。



産業振興：ビニルハウスで特産品栽培

川俣町小島地区にビニルハウスを設置して町の特産品になり得る農作物の試験栽培を開始。糖度 10 度以上のトマト「ロッソ・ナポリタン」や、空中栽培法で育てたサツマイモ、ハーブ類などを栽培しました。また、昨年度からポリエステル培地によるアンズリウムのミスト栽培を開始し、現地での技術指導および販路提案も含めて準備中です。

その他の活動（一部抜粋）

- ・放射線健康不安に関する相談会実施
 - ・町内の小学校・幼稚園において、野外でのサツマイモ空中栽培実習
 - ・山木屋地区避難住宅へ農作物の空中栽培棚贈呈
 - ・町内の小学校・幼稚園児童と共に、復興支援モニュメント作成
 - ・特産品のパッケージデザイン提案
 - ・「川俣シャモまつり」において、ビニルハウスで育てた野菜類と川俣シャモを使用したコラボメニュー販売
 - ・汚染水から放射性物質を取り除く技術の開発
 - ・藻類を使った土壌から放射性セシウムを除去技術の研究
- * 活動報告内容については、WEB サイトでも公開しています。「近畿大学東日本大震災復興支援室」で検索してください